

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度 (Year)	2024年度	開講期 (Semester)	前期
授業科目名 (Course name)	専門演習Ⅲ		
担当者 (Instructors)	堀 建治	配当年次 (Dividend year)	4
単位数 (Credits)	2	必修・選択 (Required / selection)	必修

## ■ 授業の目的と概要 (Course purpose/outline)

本授業では、それぞれが課題意識をもって、進捗状況を定期的に発表しながら意見交換の時間を大切にしながら進めていく。そこから新たな研究の視点やヒントを得て自分の研究、問題解決に役立てていくようにする。また、授業では実技を取り入れた講義を中心に行い、知識や技法を体験的に学ぶ。

## ■ 授業形態・授業の方法 (Class form)

授業形態 (Class form)	演習
授業の方法 (Class method)	演習形式で行う。ディスカッションおよびグループワークを取り入れ、子どもの遊びについて議論、研究する。

## ■ 各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)

回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション (授業説明、注意事項)	<input type="checkbox"/>
第2回	研究課題の設定と面談	面談を行い興味のある分野に関連した新しい研究分野などの紹介も行う研究課題の設定を行う。	<input type="checkbox"/>
第3回	研究課題の設定	研究課題の設定を行う。	<input type="checkbox"/>
第4回	資料収集1 (図書資料による研究課題の リサーチ)	面談で話し合った研究課題に関する図書資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第5回	資料収集2 (記事資料による研究課題の リサーチ)	面談で話し合った研究課題に関する記事資料を収集する。	<input type="checkbox"/>
第6回	資料収集3 (論文による研究課題の リサーチ)	面談で話し合った研究課題に関する論文を収集する。	<input type="checkbox"/>
第7回	研究課題の発表	5週に渡って行ってきた、面談、資料収集から各自の研究課題を見つけその内容を発表する。	<input type="checkbox"/>
第8回	調査ファイルの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査を行いファイルにまとめる。	<input type="checkbox"/>
第9回	レポートの作成	各自の研究課題テーマに沿って研究を行いレポートの作成を行う。	<input type="checkbox"/>
第10回	面談とレポートの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行い面談を交えながらレポートの作成を行う。	<input type="checkbox"/>
第11回	中間発表	各自が研究課題テーマに沿って行った調査、研究の進捗状況を中間発表する。	<input type="checkbox"/>
第12回	中間発表に関する面談	前回の中間発表を終え今後の進め方を面談で確認する。	<input type="checkbox"/>
第13回	レポートの作成	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行いレポートの作成を行う。	<input type="checkbox"/>
第14回	レポートの作成と発表準備	各自の研究課題テーマに沿って調査、研究を行いレポートを作成、発表の準備を行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	成果発表 (研究成果の発表)	これまでの研究の成果を発表し、質疑応答に答える。	<input type="checkbox"/>

## ■ 授業時間外学習 (予習・復習) の内容 (Preparation/review details)

これまでの調査・研究の成果をレポートで提示できるよう準備しておく (2時間)。授業内の面談を通して気づいた新たな研究課題を文献調査を通じて、調べる (2時間)。

## ■ 課題とフィードバックの方法 (Assignments/feedback)

研究成果を報告するための課題を実施する。

■授業の到達目標と評価基準 (Course goals)		
区分 (Division)	DP区分 (DP division)	内容 (DP contents)
知識・技能	◇ 2019子ども発達DP1	幼稚園教員・保育士になるための表現力、知識、能力を身につけ創造的に指導できる。
思考力・判断力・表現力	◆ 2019子ども発達DP2	調査、実践研究を通して探究心と知識、表現力を身につけ、主体的に課題に取り組むことができる。

■成績評価 (Evaluation method)				
筆記試験 (Written exam)	実技試験 (Practical exam)	レポート試験 (Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他 (Other)
			20%	80%

#### 授業内試験等 (具体的内容) (Specific contents)

授業内試験：授業内で扱ったテーマについて、保育教材の作成や自分の考えをまとめた小文作成もしくは口頭にて確認を実施する。  
 その他：提示された各種課題の提出状況や授業での貢献度を含めて評価する。

■テキスト (Textbooks)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書 (references books)		
No. (No.)	テキスト名など (Text name)	ISBN (ISBN)
1	必要に応じて授業中に指示する	
2		
3		
4		
5		